

## 「オープンフォレスト in 松戸」趣意書

松戸市は、比較のみどりが多いと思われていますが、樹林地は市域のわずか 4%しかありません。中でも一般の民有林は年々減り続けており、わずかに残された森は、都市の快適な生活を維持する上で、貴重な存在になっています。その存続は、「森のまま後の世代に伝えたい」という所有者の意向に支えられ、森の維持・管理は所有者の多大な負担に依存してきました。

都市のみどりは、心なごむ景観をつくり、気温を緩和するなど、重要な役割をはたしており、近年、その大切さが改めて見直されてきています。しかし、現在では森は何の経済的利益も生まないため、多くの森で十分な管理が行き届かず、良好な環境とは言い難い状況が広がっています。このままでは、森の存続さえ危ぶまれる状況です。

そこで、松戸では数年来、市民と行政の協働による「里やまボランティア入門講座」が開催され、受講者による里やまボランティア団体が毎年新たに発足し、これまで 7 団体が市内の民有林の整備・保全作業に当たっています。里やまボランティアと森所有者との相互理解・連携も深まり、各種イベントで森を訪れた市民からは、森の素晴らしさや保全活動をもっと広く知らせるべきだとの声が寄せられています。

都市に残された貴重な森を未来の子どもたちに引き継ぐ為に、良好な環境として存続させるためには、多くの市民の理解が不可欠です。市民のみなさんに森に来ていただき、森を身近に感じて、森を守る意義や課題、活動などを理解していただく機会として、下記のような「オープンフォレスト in 松戸」を実施したいと思います。関係する団体、市民、行政、企業など、多くの方々の参加、ご協力をお願いします。

### オープンフォレスト in 松戸基本構想

- \* 里やまボランティア団体が活動している森、その他所有者の同意を得られた森で、市民が参加できる一斉開放日を設ける。
- \* 開放日は、2011 年(平成 23 年)5 月 14 日(土)、15 日(日)を予定。
- \* 14 日午前:オープンセレモニーを実施(21 世紀の森と広場パークセンター)
- \* 14 日午後:いくつかのコースで、森訪問ツアーを行う。
- \* 各森の開放は 14 日午後、15 日とし、受入れ内容は、それぞれの森で企画・運営する。  
(森の散策・森林浴、自然観察、森の工作、作業体験、コンサートなど)
- \* 14 日～22 日を「松戸里やま週間」とし、関連展示等を行う。(パークセンター)
- \* その期間の前後でも、各森で企画する市民参加行事を本行事の一環として位置づける。
- \* 次年度以降も継続する。

以上

「オープンフォレスト in 松戸」実行委員会  
委員長 柳井 重人